Official Test : FUJI INTERNATIONAL SPEEDWAY. 2016 / 03 / 26-27

LMcorsa

60 OTG MOTOR SPORTS GT300

A.Iida H.Yoshimoto

OTG MOTOR SPORTS × INGING MOTORSPORT

General comment

昨シーズンに続き、OTGモータースポーツとインギングモータースポーツとのジョイントで活動を継続していくLMcorsa。引き続きスーパーGTに2台体制で挑み、うち60号車のレクサスRC F GT3を、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3として、3年目のタッグとなる飯田章選手と吉本大樹がドライブする。

岡山国際サーキットで行われた第1回公式テストから、わずか1週間足らずのインターバルで、第2回公式テストが富士スピードウェイで3月26～27日に開催された。第1回テスト同様、土曜日と日曜日の午前、午後に2時間ずつ、合計4セッションの計測となる。土曜日10時からのセッション1は、またしても濡れた路面からの計測開始に。だが、ストレートで水しぶきが上がらず、ウェットタイヤを履くまでの状態ではなかったことから、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3はコンディションが落ち着くまでピットで待機することとなった。

土曜日は飯田選手が他の仕事のため参加できず、吉本選手だけのドライブに。走行が開始されたのはセッションのスタートから約50分を経過したところ。まずはタイヤに熱を入れつつ、2周目から徐々にペースを上げていく予定となっていた。5周目には1分41秒072をマークしたところでピットイン。その後も走行を続ける予定だったものの、駆動系にトラブルが発生し、そのままコースに戻ることを許されぬまま計測が終了する。

14時からのセッション2はすっかりドライコンディションとなっていたこと、さらにセッション1での遅れを取り戻すべく、計測開始と同時に吉本選手はピットアウト。まずは1周だけしてピットに戻り、最初のセットアップが行われる。その間に赤旗中断があるも、再開と同時に吉本選手は走行を開始し、まずは1分40秒149をマーク。結果的には、これがセッションのベストタイムとなった。その後は短い周回でのピットストップを繰り返し、トライ＆エラーを繰り返しながら、セットの方向性を確認するとともに、徐々に詰めの状況にも持ち込んでいく。先にも述べたとおり、タイムの更新はならず21番手に留まったとはいえ、36周もの周回が重ねられ、少なからぬ収穫を得ることとなった。

日曜日には飯田選手も合流、9時30分からのセッション3には後半のドライブが予定されていた。計測開始とともに走り出した吉本選手は、再び徐々にペースを上げていき、10分目に1分40秒926をマークした直後にピットイン。16分間ほどのセットチェンジの後、1周だけ計測して2回目のピットストップが行われることに。そこでも17分間に及ぶ、入念な作業が行われていたのだが……。50分目を過ぎて、吉本選手はピットを離れたものの、それから間もなくダンロップコーナー先でストップしている姿がモニターに映し出された。またしても駆動系のトラブルによって、早々と走行終了となってしまう。

13時30分からのセッション4は、序盤にセーフティカー訓練が加えられ、実質2時間15分間の計測となった。それには参加しなかったものの、コースがクリアになると間もなく、飯田選手が初めてピットアウト。1周のチェックの後、それまで走れなかった分、しっかり走り込もうとしていた飯田選手は、いきなり1分40秒641をマークする。出だしは上々、そのままタイムを縮め続けてくれることが期待されたのだが……。

その直後である、モニターに映し出されたのはSYNTIUM LMcorsa RC F GT3が100Rのファイアステーションに止まり、消火器をかけられている姿だった。コカコーラコーナーに飛び込んだ直後にエンジンが突然ブロー、こぼれたオイルに引火してしまったのだ。飯田選手の機転により、間もなく火は消されてダメージは最小限で済んだものの、もはや修復して走行を再開できる状態ではなかった。失意の飯田選手はセッション4の終了を待つことなく、帰途に着くこととなった。

開幕戦までのインターバルは2週間足らず。しっかりと走り込めず、データが蓄積できなかったばかりか、トラブルまで抱えたことで不安は残るものの、これがスタッフの闘志に逆に火を着けることに。「何としても、絶対に！」と結束が高まったのは言うまでもない。その開幕戦は、4月2～3日に岡山国際サーキットで開催される。ドライバーのみならず、スタッフが一丸となって入賞を目指す。

Director's comment

チーム監督

小林 敬一

Keiichi
Kobayashi

http://www.koba-pla.net/

う〜ん、今回のテストはトラブル続きで、原因不明の駆動系トラブルが続いていて、その上まさかのエンジンブローと。いずれもしっかりと検証していかないといけないですけど、ちょっと今回はけっこう流れが悪かったですね。駆動系のトラブルは前回のテストから同じ個所で、何か原因はあると思うんですが、時間が足りず突き止められていないので、ちょっと怖いといえば、怖いですね。何とか開幕戦は保たすというか、たぶん攻めるレースはできないでしょうし、今回ちょっと火も出ちゃっているので、帰ってスタッフに修復してもらいますが、何とかグリッドに並んでチェッカーを受けられたらいいかな、という感じではありますね。

Driver's comment

ドライバー

吉本 大樹

Hiroki
Yoshimoto

http://www.hiroki-yoshimoto.com/

今回はトラブルがたくさん出過ぎて、ほとんど走れなかったですね。初日の午後に関しては、それなりのトライができたので良かったのかな、と思いますけど……。2日目も数周しかできませんでしたが、その中でも新しいチャレンジをして、いい方向性は見えました。最低限、そこは見えたので、次にはつながるかなとは思います。ただ、なんでエンジンが壊れたのか分からないですけど、これもレースウィークではなくて良かったかな、と思うようにします。原因をデータからはっきりつかんで、しっかり対策してもらって、次につなげるしかないですね。